



中の
川よ
荒だ

青い雲



教育目標

「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像：「あいさつがまんあとしまつ」ができる生徒

村上市立荒川中学校
令和5年度第9号
令和5年12月14日発行

新しい年に向けて

師走を迎え、冷え込む空気とともに一年の終わりのせわしさを感じます。今年も残すところ、わずかとなりました。寒さで体調を崩しやすくなりますので、この冬も温かくして三密を避けるなど、コロナ感染症や風邪、インフルエンザの予防に努めましょう。

今学期も生徒が力を発揮し、素晴らしい成果が見られました。「読書感想文」「税の作文」「人権作文」「県ジュニア作品展」における優秀表彰や運動部各種目の活躍などがありました。これらの成果は、生徒の地道な努力の積み重ねや前向きな姿勢、豊かな感性・発想などが関係しているように思います。目標を高く持つて努力する大切さや尊さを表彰の場で、全校生徒も学び刺激を受けています。学校生活も世代交代を迎え、次期生徒会役員選挙がありました。顔写真入りの選挙ポスターが掲示され、校内が選挙の雰囲気になりました。朝、玄関での投票の呼びかけや終学活時に各教室を訪問しての演説など、荒川中学校を先輩から引き継ぎ、更に明るく過ごしやすい学校にしたいという立候補者の固い決意が感じられました。立ち会い演説会では「全校のため、まず自分を厳しく律して行動し範を示す」という立候補者の強い意気込みも聞くことができました。選挙に立候補した生徒は、きつと先輩からの伝統を受け継ぎ、全校生徒をまとめ導いてくれることでしょう。今後を期待しています。

校長 渡辺 安治

今月は人権強調月間であり、両小学校と連携し「人権教育、同和教育」に力を入れていきます。ねらいは「差別を許さず、自己を大切にして行動できる」です。私たちは未来のある生徒から見られている大人、教員として、規範意識や倫理観を更に高めようと授業研究や講演会等を通して学んでいます。保内小学校では四年生で道徳の授業研究会があり、三校の教員が参観しました。当校では人権について、野田 尚道 様（荒島 東岸寺御住職）から御講演をいただきました。野田様は「差別のない明るい社会」のために、中学生も「差別を許さず、人権を大切にして生活してほしい」と期待を込めて語ってくださいました。私たち大人も御講演から人権や差別について繰り返し学び、自らを振り返ることが大切なことだと強く感じました。

今学期も地域の皆様方からは、大変お世話になりました。生徒が困難に負けず頑張れるエネルギーの源は、地域の皆様からの優しい支援やご家庭でのお子様への理解です。皆様のおかげで生徒は、安心して伸び伸びと諸活動に取り組むことができました。頑張りを賞賛し、励ましていただくと、期待に応えようと努力する姿も見られました。荒川地区まちづくり協議会、地元企業や各種団体の皆様方から総合的な学習において、ご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございます。皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

